



「半田」地域は愛知県知多半島の北・中部を含み 西の伊勢湾と東の岡崎平野に挟まれたなだらかな丘陵地域です。

本地域には 大きく見て東海層群（中新世末—鮮新世）・加木屋層及び武豊層（中期更新世）・段丘堆積物（中期更新世末—完新世）・沖積層（完新世）の4つの地質系統が分布しています。

伊勢湾周辺に広く分布する東海層群（河成—湖成堆積物）のうち 本地域の堆積物は主に砂層と粘土・シルト層からなりますが 礫層・火山灰層・亜炭層を一部の層準に挟みます。本地域の東海層群の層相は単調で変化に乏しく 更に地質構造も複雑なので これまでその層序・構造の全体像は明らかにされていませんでした。しかし今回の調査では火山灰層を綿密に追跡することによって 初めて東海層群の層序・構造を解明することが出来ました。また個々の火山灰層の詳細な記載から濃尾平野東部から知多半島に露出する東海層群の対比も行なえるようになりました。ちなみに伊勢湾東岸の東海層群は 常滑層群とも呼ばれていますが その名のとおり東海層群の粘土・シルトは常滑焼の原料土として用いられて来ました。しかし 現在ではあまり利用されていないようです。

加木屋層及び武豊層は 丘陵の上部から頂部にかけて分布しています。加木屋層は礫・砂からなりますが 武豊層は他に海成のシルト層を挟むことが特徴です。

段丘堆積物は古期のものから亀崎・半田（碧海）・岩滑・緒川段丘堆積物に分けられます。沖積層は谷底・氾濫・三角州・海岸平野堆積物からなりますが 平野表層部には 砂州・砂堆・自然堤防・流路州などの微地形が海岸沿いや境川沿いに形成されています。

東海層群には 名古屋港—衣浦港方向（NNW-SSE）の軸を持つ複向斜（半田向斜）が形成されています。半田向斜は全体として NNW-SSE 方向の撓曲群によって形成されており 同層準の地層が繰り返し露出しています。本地域北部には小規模ですが NE-SW 方向の断層・褶曲（撓曲）も認められます。知多半島は南北方向に延びる弱い隆起帯ですが この隆起帯はそれを取り囲む NNW-SSE 及び NE-SW 方向の顕著な断層（撓曲）一すなわち NNW-SSE 方向の伊勢湾断層・内海断層・大高一府撓曲 NE-SW 方向の天白河口断層—の運動によって形成されたものです。NNW-SSE 方向の断層

（撓曲）は 加木屋層・武豊層から半田段丘堆積物・碧海層まで変形させているので 第四紀後半にも活動したと言えます。

なお地域地質研究報告書末尾には 野外観察のさい便利なように 東海層群・加木屋層及び武豊層の露頭位置と その地質柱状図が掲載されています。もっとも 露頭の多くは人工的に作られたものなので 調査当時の状態が何年維持されるか保証の限りではありません。

「半田」地域の北側の「名古屋南部」・「名古屋北部」図幅も出版されており 合わせて御覧になれば本地域の地質の理解が一層深まるでしょう。



5 万分の 1 地質図幅の新刊

半 田

HANDA

5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告



著 者 吉田史郎・尾崎正紀
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 3,220円

地 質 ニ ュ ー ス	第 381 号	5 月 号
昭和61年5月1日	定 価 ￥ 630	〒 実 費
編 集	発 行	
発 行 人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	

©1986 Geological Survey of Japan